

足立区環境基金審査会

議事録

令和3年3月24日

【環境基金審査会】会議概要

会 議 名	足立区環境基金審査会（令和3年度第一期）				
事 務 局	環境部長・川口 弘、環境政策課長・須藤 純二				
開催年月日	令和3年3月24日（水）				
開催時間	15時00分から16時30分まで				
開催場所	足立区役所 特別会議室				
出席者 (※オンライン参加)	※倉阪 秀史	※畠中エルザ	※町田 怜子	市川おさと	工藤哲也
	石毛かずあき	※畦上 慎司	※永野 充	森下 秀重	
欠 席 者	なし				
会議次第	別紙のとおり				
資 料	足立区環境基金審査会資料				
そ の 他					

(須藤純二 環境政策課長)

みなさまこんにちは。環境政策課長の須藤でございます。定刻になりましたので、ただいまから足立区環境基金審査会を開会いたします。

本来であれば、会長が会議を進行しますが、今回、委員改選がございましたので、会長が決まるまでの間、私が進行いたします。

また、本日は新型コロナウイルス感染症対策として、会場とオンラインを併用した会議となっております。このため、委嘱状を、事前に郵送させていただきましたので、ご理解をお願いします。

また、オンラインを併用しておりますので、ご発言の際は、なるべくゆっくり、はっきりを意識していただきますようご協力をお願いします。

それでは、環境部長の川口から一言挨拶をいたします

(川口弘 環境部長)

みなさまこんにちは。本日は審査会にご出席いただきありがとうございます。

昨日、足立区と足立区議会が共同で2050年までにCO2排出実質ゼロ宣言をしました。

環境の取組みに助成をするこの環境基金という事業は、施策の中でも重要と捉えております。

年に二回の募集で、コロナの影響もあり、今回は1件ですが、ご審議をよろしく願いいたします。

(須藤純二 環境政策課長)

それでは、事前にお送りした資料を確認いたします。

まず次第。次に、「資料1」は、令和2年度足立区環境基金実績報告の資料でございます。令和2年度足立区環境基金実績報告者一覧、本日報

告する3名の申請書。続いて「資料2」令和3年度の申請書でございます。最後に「資料3」評価の考え方と採択の基準。裏面が評価シートでございます。

続いて今回、新体制になりましたので、本来なら委嘱状をお渡しするのですが、オンライン開催のため学識者委員、区議会の委員、区民委員の順に私からお名前をお呼びいたします。

(委員氏名の読み上げ)

委員のみなさま、どうぞよろしく願います。

次に、次第の4、会長等の選任に移ります。足立区環境基金審査会規則で、会長は学識者委員の中から委員の互選によって定め、副会長は会長が指名すると規定されております。

まず、会長でございますが、学識者委員は、倉阪委員、畠中委員、町田委員のお三方でございますが、いかがいたしましょうか。

(畠中エルザ 委員)

私は、倉阪委員に会長をお願いしたいと思っております。

(須藤純二 環境政策課長)

ただいま、畠中委員から倉阪委員のご推薦がありました。オンライン参加の皆様、会場の皆様いかがでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。倉阪委員を会長に選任いたします。

それでは、この後の進行は、倉阪会長をお願いいたします。

(倉阪秀史 会長)

微力ですが、お引き受けしますので、よろしく願います。

副会長は規定に基づき、私から指名いたします。畠中委員に副会長をお願いします。

次に、本日欠席者はいらっしゃらないので、本会議が成立していることを報告します。

続いて、議事録署名人を指名します。会場にお越しの、市川委員と工藤委員をお願いします。

それでは、次第の5、会議公開規定の取り扱いについて、事務局からご説明をお願いします。

(須藤純二 環境政策課長)

足立区環境基本条例の規定により、「審査会の会議は公開とするが、議決があったときは、非公開とすることができる。」となっております。

環境基金審査会の性質上、審査過程の公開については、委員の皆様にもいろいろとお考えがあるかと思えます。

今回、委員が改選され、新しい審査会になりましたので、今後の取り扱いを決めていただきたいと思います。

(倉阪秀史 会長)

昨年までの審査会では、申請者の報告や質疑の部分は公開し、審査に関する部分は非公開としていました。

原則公開ですが、申請内容を評価、審査することは、公開になじまないのではないかと思います。これまでどおり申請者の報告や申請者との質疑応答までは公開し、その後の審査は非公開にしたほうがよいと考えますが、ご意見などございますか。

よろしいでしょうか。それでは、審査の部分は非公開とすることとします。

それでは、次第の6、令和2年度の実績報告に移ります。

それでは、事務局に一旦戻します。

(須藤純二 環境政策課長)

ただいまから令和2年度に環境基金助成を受けて活動した一般助成の3件について、報告をしていただきます。

おおむね7分程度の実績報告のあと、3分程度時間を取っておりますので、ご意見や今後の活動に対する期待などをお願いいたします。ご発言したい方は、挙手ボタンまたは挙手でお知らせください。事務局が確認して会長に伝えますので、会長からのご指名後、発言をお願いします。

それでは、準備が整いましたので、会長にお返しします。

(倉阪秀史 会長)

それでは1件目の報告に移ります。

「VR技術による都市部での冠水状況体験システムの研究開発」です。報告を7分間をお願いします。1分前にベルを鳴らしてお知らせします。7分経ったところでベルを2回鳴らします。それでは、お願いします。

(東京電機大学 高橋時市朗 氏)

東京電機大学の高橋と申します。「VR技術による都市部での冠水状況体験システムの研究開発」と題しまして、発表をさせていただきます。

この研究の背景にあるのは、都市部における水害が激甚化しているということがあります。環境省の気候変動適応計画にありますように、多様な関係者の連携共同が必要だと指摘もございます。

これに耐えうるプラットフォームを作るため研究開発をしました。

目指したのは、VRが体験できる研究開発です。これによって他人の防災意識を自分事にしようというのが目的で

す。また、写真からVRの三次元データをどのように起こすかに起点を置いて開発しました。

ユーザーは、スマホはもちろんドローン、特撮ビデオ等を使って映像を撮影します。それをデータベースに入れると、測量法により三次元の地形を形成。この地形データを使い、避難体験あるいは水没した時の疑似体験ができます。平時状況が冠水すると一変してしまうことを体験して、危機意識の大切さを訴えます。

残念ながら、コロナ禍で実地調査やフォーラムの開催を見送りました。使わなかった助成金を返納する予定です。

主な購入備品は、データベース、地形をつくるための小さい199gの免許なしで撮影できるドローンカメラ、VRのシステム装置を3セット、VR用のPCです。

学生の一人が蕨市に住んでいて、荒川から3.7kぐらい離れていますが、ハザードマップでみると浸水深は0.5から3m未満となっています。これぐらい離れていればたいしたことないと思われるかもしれませんが。

これが、平常時の写真とビデオから復元されます。平常時はこのようなかたちですが、雨が降るとこういう感じになります。これで水深1mくらいですが、学生の母親が驚いていたということです。

千住の東口の1.5m浸水した映像です。これは、水が上がってくるというシミュレーションです。このように、実際に自分の町で体験できるというのが特徴です。

今年のコロナの影響で2か月間開発が止まり、実証実験や講座ができていないので、機会があれば来年度にやりたいと

思っています。足立区初のシステムとして全国あるいは世界に発信していきたいと思っています。

(倉阪秀史 会長)

ありがとうございました。質問がある場合は挙手をお願いします。

(市川おさと 委員)

非常に良い試みだと思いましたが、地形を読み取ったところでしか使えないシステムなのではないでしょうか。また、専用のヘッドマウントディスプレイが必要だということですが、汎用的なスマートフォン使って手軽に体験できるのはありますか。

(東京電機大学 高橋時市朗 氏)

作成した範囲のみで、復元できるシステムとなっています。グーグルのストリートビューなどある程度情報かき集めて作成したいと思っています。

スマートフォンを使った汎用化を目指したいです。市場では開発しているので、スマートフォンの精度があがれば使えると思います。

(倉阪秀史 会長)

大変おもしろい研究成果だと思っています。特に、内水洪水のリスクが高まっているなか、普及啓発するのは温暖化の適応策としても重要だと思います。

多くの方に手軽に見てもらって内水洪水が危険と実感してもらうのが重要です。拝見した映像でもインパクトがあるので、VRでなくても、一般の人に広く見ってもらうということ。できれば、汎用性のあるかたちでいろんな都市でみれるようにする。グーグルマップとの連携のようなものも検討いただき、これをお披露する会をやって、足立区の環境基金で、温暖化の適応策において重要なイン

パクトがありますので、マスコミにも知らしめて、全国ニュースでやってもらいたいと思います。

(東京電機大学 高橋時市朗 氏)

専門知識がない方でも三次元を理解できるようなしかけになっています。そのためのノウハウや使い方を含めて、来年度講習会を開きたいと思っています。

(町田怜子 委員)

大変興味深く拝見しました。VRであれば言語の表示もできるので、避難項目を追記できればよりいいものになると思います。

(東京電機大学 高橋時市朗 氏)

避難の表現について考えていませんでしたが、次のステップとして考えてみたいと思います。

(倉阪秀史 会長)

では、一つ目の報告は以上となります。ありがとうございました。

続きまして、「足立区の環境を題材とする科学教室のデザインと実施その2」です。準備はよろしいでしょうか。

(秀明大学 田中元 氏)

秀明大学の田中です。

これは、左側は組み立て式の大型風力発電機の写真です。右側は、メダカ教室の写真です。申請当初は未完成で安全性や耐久性に問題があったため、なるべく大きな発電性能があり、身近で安全な、組み立てられる環境教材を目指してつくりました。

コロナの問題で、科学教室ができなかったのが残念でしたが、環境教材を目指して、メダカからどれだけ環境に関する話ができるかを考えて行っています

今年度の科学コーナーですが、身近な環境コーナーの開催の通知を足立区の校

長先生あてに送りました。

12月5日開催は雨天の影響で少人数でした。合計26名の参加。次の20日に開催したものは、来場者は、午前はギャラクシティで30名、午後は元淵江公園で45名の参加者でした。

緊急事態宣言となり中止となってしまった講座もあります。

3月にギャラクシティで教室形式ではなく、ギャラリー形式で実施し、参加者は34名でした。すべての講座など合計で138名来場があったこととなります。

これは、ギャラクシティでの様子の写真です。メダカビオトープや電力発電の体験を用意しました。受付では、手指消毒・消毒用マット、予備のマスクを用意してコロナ対策を実施しました。

アンケートは男女・成人と未成年の集計をとるようにしています。得られた知見は、感想では、関心が高かったという項目は、子供も大人も同じくらいで差がないのですが、特に大人の方が楽しんでくれたと感じています。半分は大人が来てくれました。

最後は謝辞を述べて終了となります。

(倉阪秀史 会長)

ありがとうございました。質問がある方は、挙手をお願いします。

(畠中エルザ 委員)

ご報告ありがとうございました。最初の方に、蓄電の可視化とありましたが、どういうことをやられたのでしょうか。

(秀明大学 田中元 氏)

蓄電は、完成度は高くありませんが、USBでスマホのバッテリーを充電するものです。

(倉阪秀史 会長)

コロナでなかなか難しいのは、似たよ

うなワークショップをやっているので理解できるどころです。これを遠隔で体験してもらうような工夫はできませんか。

(秀明大学 田中元 氏)

教室の内容によってはできますが、巨大風力発電機はなかなか難しいです。メダカは生き物なので試行錯誤しています。リモートという考え方もありますが、今回はギャラリー形式でやりました。

(倉阪秀史 会長)

ありがとうございました。

最後の報告です。「バイオマス竹利用による循環型社会構築の実用化研究」です。準備はよろしいでしょうか。

6分でベルが1回、7分でベルが2回なります。それでは、お願いします。

(東京電機大学 椎葉究 氏)

成果報告をさせていただきます。研究の背景は、竹害による環境問題、特別なやり方や薬品を使うことなく、成分を分離するという技術を発明して新しい製品を作るものです。

竹から全部を利用する方法の研究を行いました。竹から成分を抽出する方法として、減圧マイクロ波発生装置を使い、バイオレメディエーション、土壌改良材の様々な利用法の開発を行いました。今回は、最終的な実証実験を行うものです。持続可能な資源を有効に利用し、環境問題を解決するものです。

マイクロ波発生装置竹のチップを使う。これをバイオレメディエーションに利用します。

マイクロ波処理装置は、埼玉県鴻巣にあります。竹のチップを入れてマイクロ波を下からあてて、攪拌し、上から蒸気が出て、その抽出液を回収する装置で

す。

これを使ってBP2（減圧マイクロ波処理竹チップ）が、約700kg、11月は270kg、1月は268kgの試作品ができました。

これを土壌改良剤・バイオレメディエーションとして利用を検討しました。仕組みは詳しく説明しませんが、汚染土壌を活性化する、竹のマイクロ波処理したのを使い、この効果を比較検討したものです。BP2環境汚染物質としてトリクロロエチレンを分解、石油で汚れたガソリンスタンド跡地のようなところの土壌の浄化が促進されることを見出し、大林組と共同で研究をおこなっています。

BP2は、分解が通常の竹チップのBP1と比較しても非常に速いことがわかっています。石油に汚染された土壌を入れて、油が減ったという効果がありました。BP2は、油を分解にも役に立つことが証明されました。

これで、土壌改良剤として使えることが検証できました。500kgくらい利用可能な資材があるので、足立区でフィールド試験を実施してほしいと考えます。

無理な場合は、様々な使い道があるので、こちらからお願いするので貢献につなげていきたいと思っています。

(倉阪秀史 会長)

コメントがある方はいらっしゃいますか。足立区への要望もありました。区の方からリアクションはありますか。

(川口弘 環境部長)

区が直営で工事をやるケースが減っているの、区でも検討させていただきます。

(倉阪秀史 会長)

引き続き有効活用してほしいと思いま

す。他にありますか。

(石毛かずあき 委員)

大変興味深い説明でした。今後も研究していただきたいことは、抗ウイルス作用とありましたが、新型コロナウイルスについても、うまく研究を進めていただきたいと、希望をもってお話させていただきました。

(倉阪秀史 会長)

激励のコメントでした。

私から質問です。BP2を作るにあたって、エネルギーやコストがかかると思いますが、これをかける以上の便益がえられるという見込がありますか。

(東京電機大学 椎葉究 氏)

他のバイオレメディエーション資材に比べてコストは10分の一以下でできます。利用価値は高いと思います。

(倉阪秀史 会長)

今回の成果は、環境基金の実績として貴重なものですので、世界に向けて、この基金で生まれた成果、貢献ができたということを広報してほしいと思います。

(町田怜子 委員)

農山村では、竹林の問題が非常に深刻になっています。都会の土壌改良とつながるということが興味深いと思いました。区と友好都市の竹林を整備して、地方と連携して、地方の竹林の問題の解決ができるのだと思います。

ぜひ実用化に向けて進めていただきたいと思います。

(東京電機大学 椎葉究 氏)

ぜひ、そのようにしたいと思います。

(倉阪秀史 会長)

以上で、令和2年度の足立区環境基金の報告を終わりにします。

続いて、次第の7、令和3年度の申請

に移ります。事務局お願いします。

(須藤純二 環境政策課長)

令和3年度第一期の環境基金助成を募集したところ、1件の申請がありましたので、当審査会に諮問いたします。それでは、諮問書を朗読いたします。

(諮問書 朗読)

以上でございます。

(倉阪秀史 会長)

ありがとうございました。本日は諮問いただいた1件を審査いたします。

それでは、次第の8、評価の方法、採択の基準について、事務局から説明をお願いします。

(須藤純二 環境政策課長)

それでは、本日の評価方法をご案内します。資料3、評価の考え方と採択の基準(案)をご覧ください。

まず、評価の方法について説明します。評価は共通評価と部門別評価に分かれ、評価項目は共通評価が6項目、部門別評価が2項目で、それぞれ0から5までの6段階で評価します。

裏面に評価シート案を示しておりますので、ご確認ください。また、コメント欄がありますので、高い評価あるいは低い評価となった理由や、気になったこと、活動内容や活動費、活動後の方向性などにご意見や条件を付けたいことなどを記入してください。

次に採択の基準について説明します。全ての委員の点数を集計し、6割以上の点数を獲得した活動を採択とします。極端に低い点数、例えば50点以下の点数を付けた委員がいた場合は、自動的に採択とせず、委員で協議していただきます。また、採択する場合も、活動の一部

のみ認めたり、金額の変更、条件を付けることなどもできますので、ご意見などがございましたら自由記述欄にお書きください。

中には、審査が難しいこともあるかもしれませんが、貴重な公費を使つての助成でございます。専門家、区議会議員、区民それぞれのお立場から、審査をお願いいたします。

以上、事務局の案についてご説明いたしましたので、ご審議をお願いします。

(倉阪秀史 会長)

初めての方もいらっしゃると思いますので、簡単に整理いたします。

活動内容を5点から0点までの6段階で評価する。特に意見があれば、自由記述欄に記入します。

コメント欄にてについても記載をお願いします。採択が微妙であった場合、条件を付けるということがありますので、記載いただきたいと思います。

集計の結果、6割以上であれば、採択とします。ただし、極端に低い点、事務局の説明では5割以下という例でしたが、この場合は、委員間で協議します。

まとめるとこのような感じですが、みなさま、ご意見やご質問があればお願いします。

(異議なし)

ありがとうございました。

続いて次第の9、令和3年度の申請の書類審査に進みます。

事務局から申請の概要について、説明をお願いします。

(須藤純二 環境政策課長)

資料2が申請書でございます。特定非営利活動法人 Chance For All から申請がありました。内容は、学童保育に通

う小学生が、ポスターやエコバッグなどを作成し、配布することで地球温暖化を防ぐ呼びかけをするものです。申請金額は18万円です。

事前にいただいた委員からの質問に対し、申請者から回答がありましたので、共有いたします。

質問内容は、「エコバッグは使用してもらうのが大切だと思いますが、使用を促す方策も何か併せて検討されていますでしょうか」というものです。回答としては、「こどもたちに確認したところ、使うことを促す方法としては、「使った方が良い」「使おう」と思えるチラシを作ること、そして、使用している人を見たら「使ってくれてありがとうございます」と伝えるということでした。」委員の質問とその回答については以上です。

評価方法について事務局案で決定いただきましたので、オンラインの方は、お送りしている評価シートデータを、会場の方には、ただいまお配りした評価シートをお使ください。

(倉阪秀史 会長)

ありがとうございました。それでは、書面審査ということで、意見交換し、そのうえで、評価していただきたいと思います。

【評価については非公開】

(倉阪秀史 会長)

集計結果がまとまりました。採択いたします。

これで本日の審査は終わりですが、委員の方からなにかご意見はございますか。

(島中エルザ 委員)

足立区の方に伺いますが、コロナ禍の影響を今年も受けて応募も少なくなるの

ではないかと懸念していますが、どのように募集をかけていくのか、教えていただけますか。

(小山秀一 計画推進係長)

4月から広報で募集する予定ですが、緊急事態宣言が終わったので、団体の集まりやホームページやSNS等でも呼びかけを増やすことを考えています。

また、環境基金の使い道を研究しなければならない段階にあると認識していますので、中長期的な課題として考えていきます。

(倉阪秀史 会長)

カーボンニュートラル宣言をしたということで、議会とも足並みを揃えて宣言した23区初めての区ということです。環境基金を運用している区も足立区さんくらいだと思いますので、有意義なスタイルで行われるように、我々も協力したいと思っていますので、引き続きよろしくをお願いします。

それでは進行を事務局へお返しします。

(須藤純二 環境政策課長)

長時間審議いただきありがとうございます。

途中不手際がございましたが、オンラインの難しさを感じた次第です。

4月下旬から第二期の募集を開始します。次回の環境基金審査会は、7月5日の午後に開催します。次回もオンラインを併用した形で開催する予定でございます。

開催通知は1か月前、資料は1週間前にお送りしたいと思いますのでよろしくお願いします。

事務局からは以上です。

(倉阪秀史 会長)

ありがとうございました。これをもちまして、環境基金審査会を閉会します。ありがとうございました。

以上

(会議録署名)

足立区環境基金審査会 会議録記録署名員
(令和3年3月24日 開催)

会 長	倉 塚 香 史
署 名 委 員	市 川 伯 登
署 名 委 員	工 藤 哲 也